

白山沼のイトヨ

(喜多方市イトヨ研究家)

山中 實

都市や農村地域、山地などの開発で、野生生物は生息環境から追われるように数を減らしている。北会津村には、昔から湧き水が豊富な池が各地にあり、そこにイトヨの泳ぐ姿が見られた。地元では「トゲチヨ」と呼び親しんでいる小魚であるが、近年の農地整備や河川改修、地下水の揚水などで、その生息環境の悪化、湧水枯渇などで、一時は絶滅の危機にひんした。

北会津村では、イトヨ保護に取り組み、昭和五十一年五月四日に「白山沼イトヨ生息地」として福島県指定の天然記念物となった。

昭和六十三年五月七日に「頭無清水イトヨ生息地」を北会津村指定の天然記念物として生息環境を守っている。

一、イトヨの形態と分類

イトヨは、トゲウオ目トゲウオ科に分類される小さな魚である。イトヨは、ガステロステウス (*Gastosteus*) の一種として分類される。種名は、アクレアーツス (*aculeatus*) の学名がついている。属名のガステロステウスは、腹部の骨の意味で、トゲウオ類に特有の腹棘を支えている骨を指しており、種名のアクレアーツスは棘を意味している。

学名にもあるように、イトヨは背中に三本と腹部に一对の棘をもち、しりびれの直前にも小さな棘が一本ある(図1)。背中和腹部の棘は、鋸歯状になっており、かなりごつい感じを与える。背中の棘は頭に近い二本は長く、背びれの前の一本は短い。いずれの棘にも三角形のひれ膜

がついている。

胸びれは大きく目立つが、棘はなく十本の軟条で構成されている。腹部の一对の棘は、腹びれで、よく見ると一本ずつの軟条あってひれ膜で棘とつながっている。しりびれは一本の短い棘と八〜十一軟条からできている。もうひとつのひれである尾びれは、十二本の軟条からできている。

トゲウオ類には、コイなどのような鱗がなく、骨質の鱗板(りんばん)をもっている。この鱗板は、背中和体側各一列にあり、背中の鱗板は六個ほどあって背中の棘を支えているが、数は必ずしも一定ではない。

体側には、大きな鱗板が一列あって、よく目立つ。この鱗板数は大きく変異し、生息場所や生活型と鱗板数の関係はイトヨ研究の主要なテーマとなっている。

体側の鱗板数から、イトヨは大きく次の三つの型に分けられる。

完鱗板型・鱗板が鰓の後方から尾柄部まで配列している。北会津村産など

中間型・体の前部にのみ鱗板をもつ。

少鱗板型・体の前部にのみ鱗板をもつ。

変異は、鱗板数や大きさだけでなく、棘の長さ、棘の鋸歯の程度などのさまざまな形態にみられ、また生態にも現れる。